

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成19年度 第14回
開催日時	平成20年1月9日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎 1階102会議室
出席者	委員：赤石委員、池田委員、虎頭委員、西山委員、角田委員、中村委員 富田委員、高木委員、角田委員、北條委員、渡辺委員、荒井委員 欠席：青木委員、蚊野委員 事務局：三芳課長、岩田係長、インテージ2名
議題	1 第13回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認 2 男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査報告書及び概要版について 3 西東京市男女平等参画推進計画の見直しに当たって 4 その他
会議資料の名称	資料No.1 第13回西東京市男女平等参画推進委員会会議録（案） 資料No.2 市民意識調査報告書修正点 資料No.3 西東京市総合計画（後期基本計画）策定に関する調査結果等について
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>委員長： 第14回の委員会をはじめ。事務局からはよいか。</p> <p>事務局： 特にない。</p> <p>1 <u>第13回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認</u> 委員長： 会議録の確認に入る。何かあるか。ないようなので、承認された。</p> <p>2 <u>男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査報告書及び概要版について</u> 委員長： 市民意識調査の報告書・概要版の変更箇所について、何かあるか。</p>	

委員：
前回の委員会の議論の内容が反映されているのか。

事務局：
そのとおり。また、さらに1ページ追加している。問8 - 1に関するグラフが抜けていたのでグラフを追加した。概要版の最後のページの市の施策紹介部分についても添付した内容を追加している。

委員：
・「パリテ」の箇所：住吉会館の紹介になっている。「パリテ」を主語にしたほうがよい。
・「エガール」の箇所：もっとわかりやすく、好評だった企画を載せたらどうか。できれば箇条書きで。
・フォーラムの箇所：今回の講演会も盛況だったが、過去のフォーラムの経緯を紹介したほうがよいのではないか。

事務局：
体裁は変更される可能性があるが、内容は今の意見を参考に修正する。

委員：
賛成である。「パリテ」を主語にしたほうがよい。

委員長：
住吉会館の愛称も追加する。住吉福社会館の中に開館することを書いていただきたい。
「エガール」やフォーラムの件は今年だけではなく、過去の実績の中からフィットしたものを選んだほうがよい、という意見だがどうか。

委員：
「エガール」は興味を持った人に渡すということで今年度分を挙げたのではないか。

委員：
「エガール」の箇所に「今年度」とあるのは平成19年度か20年度か。

事務局：
平成19年度分。これから発行する分もある。

委員長：
ならば「平成19年度」という言い方のほうがよい。

委員：
女性相談の箇所：相談に応じてくれる担当者を示したほうがよい。

委員：
臨床心理の専門の人か。

事務局：
臨床心理は持っていない。カウンセラーが担当している。

委員長：
専門の相談員が対応する旨と時間も入れたほうがよい。

事務局：
時間は細かいので無理だ。

委員：
予約の方法なども入れてはどうか。

委員長：
細かく書かなくても、見た人が何らかの方法で連絡がとれればよい。

委員：
概要版を翌年度にみることもある。手にした人が「エガール」に興味をもつために、好評だった男の子育てなどのテーマのほうがよい。

委員長：
他に取り上げたほうがよいテーマはあるか。

委員：
介護のテーマもあったはず。

委員：
男女共同参画という切り口で幅広いテーマを取り上げているということがわかったほうがよい。

委員：
理念を強調するよりも市民の身近な話題のほうがよい。

委員長：
事務局で選んでもらえるか。

事務局：
「エガール」については了解した。フォーラムについてはどうするか。

委員長：
映画会を兼ねる、というのは抜きにして、講演会の講師がタイトルを並べてはどう

か。最後の修正ということをお願いしたい。

では、これまでの3回にわたる実績評価と意識・実態調査を踏まえて、西東京市の計画を再度見直すという大きな課題に向け、こういう観点が必要ではないかという意見を出していただきたい。

意識調査の結果では否定的な人が多いように思えるという意見もあったがどうか。

委員：

議事録をみると、前回の委員会で意見があったのは、

- ・介護する人へのサポートが切実になってきている
- ・男性の生きにくさもあることから男性相談はどうか
- ・保育や介護制度の充実を望む声が強いが、国や都の施策に縛られる

など。男女共同参画の施策が何をやっているかわからない、という点は少しよくなってきているが、総合計画のアンケートの結果では、満足度は「わからない」が圧倒的に多く、重要度は高い。つまり、重要なことはわかっているが自分が何をすればいいかわからない状態かもしれない。

そこに、女性センターの存在意義があり、市民とネットワークを組んで一緒にやってもらう核になる。

委員長：

総合計画のアンケートの「わからない」は、考えたがわからないのか、興味がないのか回答者によって少し違うかもしれない。

委員：

男女平等や共同参画は日常生活の中では使わない言葉である。ピンとこないのではないか。

委員：

アンケートの調査票に用語説明は必要だと思う。

3 西東京市男女平等参画推進計画の見直しに当たって

委員長：

では、計画の見直しを計画の柱ごとにグループ作業していただきたい。

今までやってきた実績評価の際に、評価を付けながら、この計画の難しさや、あるいはもともと無理だなど、何か意見があれば、先に全体で議論し、その後でグループ討議にかけたい。

委員：

質問だが、男女平等参画推進計画を見直す際に、例えば実績評価やアンケート等で、この部分は達成されたからもうこの項目は要らない、あるいは、情勢が変化してきているからこれは変えた方がいいなどを検討するのであって、計画を根本から覆すほどの変化は求めているのか。

委員長：

意見として出していてもいいのではないか。計画を作ったときの状況と今の状況で、あるいは意識の変化も強く出てきている部分があるかもしれない。

委員：

女性センターができたことも大きな変化である。

委員長：

基本的にはそれほど大きくは変わっていないと思う。

委員：

アンケートの結果も踏まえる必要はあるが、実績評価で3年連続Cの項目がポイントになるのではないか。まず、実績評価を中心にして重要施策を洗い出す必要がある。第1期で重要施策として決められたのに、C - C - Cの場合、提言の言葉を変えていく必要がある。その上で新しい課題をアンケートから探すのがもう1つの作業になる。

また、例えば介護者のことや、男性の意識をどう変えていくか、など視点を絞ってみていけば、削ったほうがよい項目、追加したほうがよい項目が見えてくる。

委員長：

実績評価を取りまとめる際に、重要施策の取り扱い方や位置付けが、必ずしも重要と見えていないとあったので、それはぜひ見ていただきたい。

また、アンケートからは、格差（男女差だけではなく、女性の中の格差、男性の中の格差も）が広がっている問題を、どのように男女共同参画社会に入れていくのかということもあった。それから介護者の問題が出てきた。

もう一つ、CやD、空欄が続いている施策が、一体なぜそういう評価になっているかという根拠。逆にA - A - Aの項目で、もう達成されて取り組まなくてもいいということか、それでも続けるべき施策なのか、そのあたりの見極めもある。

各グループで具体的に細かく、計画の体系の中で具体的施策や方向性の点検などをお願いしたい。

委員：

遅れてきたが、今日新しい課題として確認されたのはどんなことだったのか。

委員長：

今日はあまりでていない。

委員：

今、DV（ドメスティック・バイオレンス）に対しての取り組みを全国的にも西東京市でもかなり力を入れていると思うが、新しく発見された課題として、若いカップル間のDVが挙げられる。若い方にそういう話をしたときの反応がすごい。やっぱり自分も、実は受けているんだということを見出す人がとても多いような気がする。夫婦間だけではなく、若い方たちの中で既にジェンダーについての格差がものすごくある。そういうこともちょっと意識に上った方がいいと思う。

委員長：

就労、介護、子育てといろいろな場面で関わってくる。どのように計画に反映させていくとよいか、みなさんで考えていただきたい。

委員：

就労については、大きな国の流れとしてはあるが、自治体としてどう取り組むかは難しい。計画には挙げているが動けないため、毎年「C」が並んでいる状況。お金や連携（他市や市内の企業等）など、いろいろあるので動きづらい。

委員：

もう少し意見を詰めたほうがよいと思う。男女共同参画でどういう社会を目指すのか、一致した認識に立った上で議論したほうがよい。

委員長：

1つの提案だが、重要施策を絞り込んでいくのはどうか。

また、毎年「C」が並んでも、これは市の課題ではなく、国の課題であると言い続ける意味がある場合がある。

委員：

未解決であることを示すために、メニューには組み込んでおく必要がある。

委員：

理想というか目指すべきところはきちんと載せるべき。現実に合わせて縮小すべきではない。

委員：

自治体がやるべきことと国に要求すべきことをきちんと区別する必要がある。

委員：

枠組みとしてはできる場合がある。豊中市や千代田区などで、自治体が業者を選定する際に、入札条件などで男女平等に取り組んでいる業者を優遇するようなことをしている。そういうことができたらいい、ということで計画に入れた。あまり進まなかったが全くできないことを含めたわけではない。

委員：

第1期の計画にも、明らかに国しかできないということは挙げていないはず。

委員：

お金がかかるものについては、国では支給していない補助金などを市が独自に出すか、国等の補助金に市が上乘せして補助するくらいしかない。独自ではできない事業はないかもしれないが、現実的には厳しい場合も多いのではないか。

委員：

できなくはないが、理想に近いようなレアケースの場合もある。

委員：

ならば、中間として何か足がかりになるものを付けるとよいのではないか。あまりに遠い理想を書き込んでいけなければ、どう書けばよいか。情報収集する必要がある。

委員長：

もう1つ意見を聞きたいのだが、計画の推進は市であり各部署であるわけだが、こういう少し離れた場で計画が見直されていくのは、どういう意味なのか。当事者が誰なのか、市の職員も「やらされている感」があるのかもしれない。

委員：

しかし、計画自体は市が決めているのではないか。

委員：

計画は主管課が勝手に作っているわけではない。担当課の了解済みで文章になっているはず。了解を得ている計画のはずなのに、という思いはある。

委員：

担当課の判断でカットされた項目もあったはず。

委員：

性教育や混合名簿の箇所は何往復かしていると思う。

委員：

担当課の同意の上で市民に実施内容を提示している計画と受け止めている。

委員：

委員会は市に提案し、市が責任を持って実施することになっていると思う。

委員：

担当課も重要性は理解しているが予算等の事情で難しいというのが現実か。

委員：

何も達成されなかったという項目があっても何も起きないのか。

委員：

市民が見て、達成されていないからおかしい、と意見をだしていくことになるのではないか。

事務局：

従来の計画策定の審議会、委員会は計画策定後に解散するケースが多かった。男女平

等はポリシーであり、形になるものをつくるわけではないので、この計画の委員会については意識的に継続的な組織にしている。市では他に同様な委員会は少ない。

計画をつくる段階では、施策の実現性に関してキャッチボールを随分した。

しかし、5年間やってきてみえてきた面（あるべき姿、難しい点）や社会情勢の変化を踏まえ、表現等の見直しをしていただければありがたい。

委員長：

共通認識の上でグループ作業を、ということで、一旦各グループでたたき台を議論してもらってもよいか。

委員：

こういう議論をしたことは過去にあったのか。

委員長：

特にはないが、今のいろいろな意見が出された中で考えていただきたい。

委員：

まず理念がある。そして、取り組みの視点があり、これらがメインだと思う。その中で「これを遂行するためにはどういう視点なのか」ということを各グループで議論していけば男女平等の共通認識が具体的なかたちで出てくる気がする。一度具体的な論議をしたあとで、それをフィードバックして全体で討議してもよいのではないか。

事務局：

行政が委員を委嘱する際には、いろいろな職業、立場の人をお願いするようにしている。方向性は同じではなくてはならないが、必ずしも同じ認識でなくてもよいのではないか。

委員長：

少しだけ具体的な内容を議論して、それがどう社会イメージに絡むのかはあとで議論できるので、手がかりを見つけてほしい。

委員：

作業の終着点は何か。成果目標の修正提案まで踏み込むのか。事業の継続等をいえばよいのか。

委員長：

言葉遣いも含めて施策の具体的な内容を検討していただきたい。加えて、重要施策の取捨選択も行っていただきたい。

委員：

提案を出すというかたちでよいのか。

委員長：

粗々でよいので各グループの提案を出していただき、さらに全体で議論する。

委員：

スタートした時点から漠然としていたが、大体理解した。

委員：

例えば、現行の計画なら11ページに全体像があって、具体的施策がある。その施策の概要や主な取り組みは22ページにある。この部分を、時代にそったものなのか、市民のニーズにあったものなのか、国策との整合性はどうか、といった視点で検討し、書き換える（見直す）ということだと思う。枠組みを変えてもいい。

委員：

改定への提案になる。

事務局：

計画そのものは平成20年度で終了する。平成21年度以降の計画になる。社会的な激変でもない限り、11ページの枠組みは大きく変わることはないだろう。それぞれの枠組みの中で、社会情勢や法律の体系の変化を組み入れるか、また、実績が伴わない施策などをどうするか、という範囲になるかと思われる。

委員：

スケジュールはどうなっているのか。

事務局：

新しい計画の策定は3月。したがって作業は12月くらいまで。遅くとも1月末までには最終答申をいただく必要がある。ただし、その前に1つのハードルがある。委員の任期は今年の7月で切れる。再委嘱したいと考えてはいるが、手続きが必要になる。

委員：

手続きの1つに、市民に提示して意見をもらうプロセスがあったが、今回も同じか。

事務局：

その予定である。

委員長：

4月以降にはもう一度評価の作業が入る。それも踏まえて秋頃にはこの委員会の提案をまとめたい。時間もないので、次回に各グループの案を持ち寄っていただきたい。今日は、少しでも具体的な手順などを相談してほしい。

(グループ別に相談)

4 その他

委員長：

時間になった。次回までに各グループでたたき台をつくっていただきたい。次回は2月13日（水曜日）に開催する。

委員：
市からタイムスケジュールを出してもらえないか。

事務局：
送付する。

委員：
たたき台は文章にしなくてもよいのか。

委員長：
グループで話し合ったことは文章にしたほうがよい。

事務局：
文書は事前に提出いただけるか。

委員長：
会議の資料として当日、配布いただければよい。

事務局：
2月12日（火曜日）までに事務局に送っていただきたい。

委員長：
次回までに考える糸口を出していただくようお願いします。

以上